

足立区生物園における教育利用研究会での取り組み

教育利用研究会について

目的

足立区生物園（以下、当園）が持つ生きものや環境に関する専門性を活かし、教育施設による利用を促進する。

経緯

汲み取りきれっていない教育現場の声を積極的に取り入れるため、2017年に発足。年2回協議を開催し、プログラム開発を行っている。

構成メンバー

※幼児発達、動物園、動物愛護を専門とする

①保育園・幼稚園



②小学校



③中学校



活動報告

各グループで開発したプログラムを試験的に実践してみました

①保育園・幼稚園

【ねらい】 感覚を使ってチョウの一生を感じ取る

感覚を使った

チョウの一生プログラム実施

参加団体
区内保育園 2園 計56名
区内幼稚園 2園 計182名

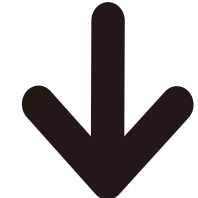
園でも飼育する機会のあるチョウは身近で親しみやすい。

生きものに親しむ事を重視したプログラムが欲しい。

団体用プログラムがない。

振り返り

体験を通じて、自分の力で新しい発見をしている様子が見られた。



今後に向けて

集中力が落ちてしまうことがあり、話し方など検討が必要。より感覚を使った内容（聴覚：そしゃく音、味覚：蜜の味見など）を取り入れていきたい。



見る 聞く

話を聞く。
卵・幼虫・蛹の実物を見比べる。



触る

幼虫・蛹を触り比べる。



嗅ぐ

幼虫・成虫の工サなどを嗅ぐ。

★1回15分程度
★1回最大32名対応

②小学校

【ねらい】 地域の環境と身近な生きものとの関係について考えるきっかけ作り

第一歩として

腐葉土作り体験実施

参加団体
区内小学校5-6学年（栽培委員会）25名

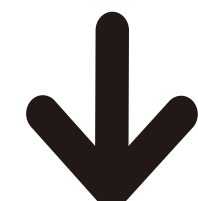
身近な自然の変化と生きもの同士のつながりを考えることを題材に検討を進める。

地域や農業などの授業と関連した利用を促したい。

社会見学や園内プログラムなどの利用機会はある。

振り返り

校庭の落ち葉を仕分けたことで、身近にある植物の多様性に気づくことができた。



今後に向けて

腐葉土完成後は学校全体での利用を目指す。児童の反応を見ながら、授業での活用など、多方面からのアプローチを試し検討していきたい。



落ち葉を集める



これからについてレクチャー

層にしてい

米ぬか
水
落ち葉

月一回、空気を入れる。湿度や変化を記録する。

③中学校

【ねらい】 主体的に体験し情報発信できるようになる

既存プログラムの

補助スタッフ

として活動

参加団体
区内中学校 科学部
海の生きものタッチプール 3名
公園ツアー 4名

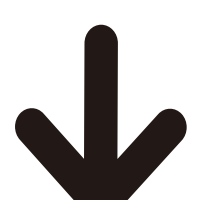
部活動やボランティア活動などは参加しやすい。

知識欲はあるが、多感な年齢なのできっかけを掴み辛い。

職場体験としての訪問が主。授業に組み込むのは困難。中学生に特化したプログラムがない。

振り返り

中学生の知識欲を満たし、情報発信への効果が見られた。



今後に向けて

より生徒が主体的に活動できるような仕組み作りを検討したい。学校内、区内中学校への広報活動や情報共有を活発にし、当園や生きもの・自然への関心、活動への参加意欲の向上を目指したい。



海の生きものタッチプール

事前レクチャー



実際に情報発信



公園ツアー「生きもの探検」